

手賀沼流域事例報告「大津川に再びホタルを夢みて」

発表者/ 大津川をきれいにする会 代表 長原邦子さん

■ 手賀沼河口までを約2年かけて清掃

大津川は鎌ヶ谷市佐津間の白幡橋を起点に柏市高柳に入り、更に北上し、手賀沼西部に注ぐ全長約7.9kmの利根川水系の一級河川です。大きな谷津を形成して両側には水田、畑、斜面林など日本の原風景が残り、小さな湧水池が点在しています。周辺には大きな寺社や史跡などもあり、自然、文化、歴史の豊かなところです。大津川をきれいにする会は、「大津川を再びホタルの里に」をスローガンに、地域の環境向上と手賀沼浄化につとめ、あわせて会員相互の親睦を図ることを目的に2004年(平成16年)に発足しました。

昭和30年代までの大津川はシジミやサワガニ、メダカが住み、子どもたちが川で遊び、ホタルが飛び交う美しい川でした。昭和40年代、急激な人口増加に伴って激増した生活雑排水が流れ込み、洗剤の泡が舞うゴミだらけのドブ川に変わりました。昭和50年代には鎌ヶ谷市と境の柏市の川沿いに新興住宅が建ち並び、越してきた新住民は洗剤の泡、匂い、ゴミだらけの川を見て「何とかならないか」と思っていました。立ち上がったのが中村明前会長(故人)です。大堀川の水辺をきれいにする会に入会し、立ち上げのノウハウを勉強され

ました。現在会員は男性38名、女性8名、合計46名です。清掃活動は寒い1月、暑い7月8月を除き、毎月第3日曜日に400~500mずつ移動し、手賀沼河口まで約2年かけて到達しています。巨大ゴミは減りましたが、ゴミ捨ては相変わらずです。

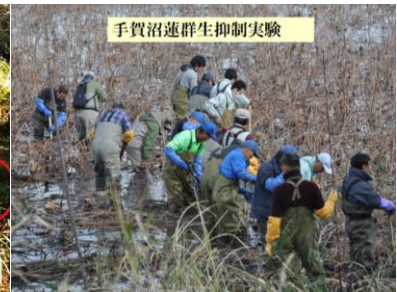


■ 近年は手賀沼の水草問題調査・実験にも協力

会の立ち上げにご支援いただいた大堀川の水辺をきれいにする会とは兄弟関係ができ、年1度、親睦清掃活動を行っています。鎌ヶ谷・大津川を清流にする会のみなさんとは鎌ヶ谷上流の清掃を一緒に行っています。高柳の「みんな集まれ柳の木」主催の清掃活動(ピカ美化運動)は、高柳を中心とした小中高の児童生徒や地域住民約800人が参加する大規模な清掃活動です。当会は、



沼南高柳高校、高柳中学校の生徒と大津川周辺のゴミ拾いをしています。水質調査は年2回、柏市職員、沼南手賀沼ボランティア会の方と当会が市内2か所の湧水、大津川2か所で行い、会独自でも大津川2か所と湧水2か所で行っています。美手連からの声かけで



特定外来生物ナガエツルノゲイトウの大津川での繁殖実態調査も行いました。両岸からナガエツルノゲイトウがせり出し、ある程度大きくなると流れていくとのこと。河口がふさがるとではないかと心配です。また、手賀沼のハスの繁殖を抑えるため、レンコンに傷をつける実験にも参加しました。実験は効果があったようで、正式発表はこれからです。

毎年12月の手賀沼統一クリーンデーでは、千葉銀行ボランティアグループ約50名のみなさんと一緒に手賀沼河口周辺とふれあい緑道のゴミ拾いを行っています。風早南部地域ふるさと協議会主催のふる協まつり(9月)では、パネル展示で周知活動をしています。

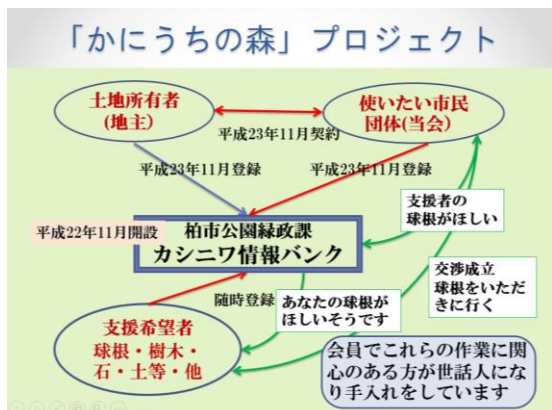
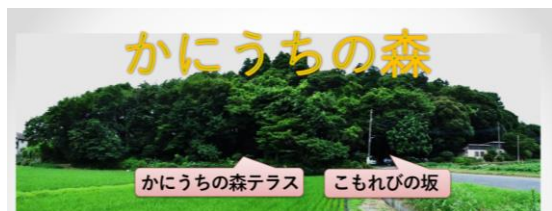


高柳小学校、鎌ヶ谷市立北部小学校4年生の授業に出向き、大津川の今と昔の話もしました。手賀沼フォーラム柏イベントでは当会が企画し、「大津川流域の自然と歴史をバスで訪ねる」というイベントを開催。参加者のみなさんと高柳駅を出発し、大津川流域から手賀沼河口までバスで回りました。多世代交流型コミュニティ実行委員会主催の納涼盆踊り大会は、来場者が2日間で4,000人を超える高柳最大のイベントです。そこで駄菓子屋さんを出店。売上金は貴重な活動資金になっています。広報活動ではホームページを作成し、毎月発行の『会報せせらぎ』は今月で151号になりました。



■ カシニワ制度に参加し、かにうちの森を整備

カシニワ事業も行っています。カシニワとは、市民団体などが手入れしながら利用できる柏市内のオープンスペースや一般公開可能な市民の庭を「カシニワ」＝「かしわの庭・地域の庭」と位置づけ、緑の保全、創出、人々の交流の増進、地域の魅力アップを図ることを目的とする制度です。所有者、市民団体、支援したい人の情報を集約し、市が仲介を行う情報バンクも開設されています。私たちは約5,000㎡の柏市保存林の地主さんに倉庫やトラックをお借りしたり物置を置かせていただくなど、お世話になってきました。お礼に年1回、清掃活動をしていましたが、地主さんからお話を聞き、カシニワ制度に登録することにしました。近くを流れる大津川にかかる



橋がかにうち橋なので、かにうちの森と命名しました。平成 23 年 11 月に登録し、地主さんとも契約しました。契約は 2 年ごとに自動更新しています。この事業に関心のある会員が世話人になり、手入れをしています。高柳駅から徒歩 5 分。森から先は川や田畑、森林のある里山で、別世界です。

登録後は森とテラスの手入れから始めました。まず、カシニワ情報バンクを通していただいたサギソウの球根を植えました。翌年からサギソウ鑑賞会を開いています。「かしわの森人」さんからはアジサイをいただき、植樹から 3 年後



には見事に咲き、道行く人々の目を楽しませてくれています。カシニワ活動を始めて 5 年。月 2 回の通常活動のほかに、カシニワフェスタ、小学校校外授業の支援、高柳児童センター主催のじどセンちゃれんじクラブの支援、地域参加型森の清掃活動などがあります。草取りや花の手入れなどの日常作業に加え、いろいろな作業をしています。森やテラスで切り落とした小枝はチップにし、森の小道やテラスに敷いています。訪れた人たちが「ふかふかして気持ちがいい」と言いながら散策しています。自由に植えられる花壇も設置しました。



5 月のカシニワフェスタでは、子ども中心にイベントを開催しました。「森の中で生き物探し」ではカブトムシの幼虫を見つけました。親子でノコギリ体験、また、今年は農家さんのご厚意で田畑の一部をお借りし、里芋の植えつけ体験と田植えの体験をしてもらいました。稲は 9 月に見事に実り、稲刈りをしました。秋の清掃活動のあとのイベントで、子どもたちに芋掘りをしてもらおうと思っています。里芋はそのときにつくる芋煮に使います。お米はおにぎりで参加者に提供する予定にしています。



高柳小学校では生活科の授業の一環で、毎年 2 年生全員がかにうちの森探検と、大津川の川や水路で水に触れ、生き物調べをする校外学習があり、会が支援しています。子どもたちがけがをしないよう森はもちろん、川や水路も裸足で入れるようきれいにしています。毎年全児童からお礼の感想文が届きます。活動によって、生き物のために川や森にゴミを捨てない大切さを感じてもらえたのではないかと思います。又、前日大雨のために川に入れなかった年の児童のためにスイセン畑を用意し、全員で球根植えをしました。翌年には見事に咲きました。



カシニワ事業最大のイベントは、かにうちの森秋の手入れです。地域住人のみなさんにも参加していただ



き、森や川を清掃し、終了後はイベントで楽しんでいただきます。焼き芋、火起こし体験、ノコギリ体験、かご作りなど。大人も子どもも楽しんでいます。今回はじめて、数珠で首飾りをつくりました。

以上で活動報告は終了ですが、十数万年前の化石という貴重な宝が、大津川の川底に眠っていることをご報告します。十数万年前、沼南が大海原だったころの化石が豊富に眠っています。100種に及ぶ貝、迷路のように入り組んだエビの巣穴、サンゴなどが発見されています。大津川流域で化石がとれることは知られていませんでしたが、会員の1人の地道な調査により少しずつ実態が明らかにされつつあります。採集した化石は今後、博物館や大学と連携し、取りまとめをして一般普及に関与したいとのことでした。これをもちまして大津川をきれいにする会の紹介と事例発表を終わります。最後までご覧いただき、ありがとうございました。



【質疑応答】

● 化石のこと、ホタルの現状

岸 鶴見川でも縄文海進期のものが大量に出ます。10万年前だと地べたが隆起するから、川底ではなく標高何十メートルの地点に出ると思います。調べてみてください。

長原 わかりました。ありがとうございます。

Q 大津川を再びホタルの里にとのことですが、いまホタルは見られますか。

長原 いえ。まだ先がちょっと遠いです。

Q 大津川にはスッポンはたくさんいますね。私も大津川は調べたことがありますが、田んぼの脇から水が入ってくるところには魚や生き物がたくさんいますが、大津川にはそんなにいないと思います。

長原 小魚みたいなのはいます。

Q 沼南高柳高校のわきにハンノの林があると思いますが、あのあたりミドリシジミがたぶん出てくると思います。ご覧になったことありますか？

長原 いえ。残念ながら、まだそこらへんまでは。

Q カシニワ制度からはどんな予算が出ていますか？

長原 今は出ていません。大津川をきれいにする会の会計から援助してもらっています。

Q すると、皆さんボランティアということですね。

長原 まったく無償のボランティアです。逆に会費をいただいています。申し訳ないです。

Q 地域を愛し地道な活動をされていて、素晴らしいと思います。

岸 鶴見川ネットワークでは流域45団体が活動していますが、3人4人でやっているところが多く、次世代の見通しも楽観的ではありません。少人数でなぜやっているか。全体をくくるNPO法人が全力で稼ぎ、有給の職員が6人います。そして、年寄り3人で頑張っている団体に50人の児童が来るということになったら、職員が飛んでいきます。いざというときは応援が来るという自信で頑張ってくれています。ぜひこちらでも全体をくくるNPO法人が連携団体を救うシステムを工夫してほしいです。

Q(司会) ご意見をありがとうございます。長原さん、新入会員が入ってくる仕組みはありませんか？

長原 ないです。1人2人とぼつぼつ入ってくださいますが、高齢化は進んでいます。あと2~3年は大丈夫と思いますが、そのあとはNPO法人化などを考えないといけないのかなと漠然と思っています。

● NPO 法人が有償事業をやると株式会社より税金が高い!

Q 岸先生のところでも当然、世代が上がっていると思います。中心人物が頑張れば頑張るほど、ますます「私たちがやらなくちゃ」と思ってしまうと思いますが、そのへんいかがですか?_

岸 実情をいうと、鶴見川流域でも一番元気な集団の一つは、平均年齢が 75 歳くらいです。若い人は来てくれません。イベントをやるときは NPO が学生アルバイトを雇用して助けに行くなどして、ぎりぎりです。老人たちには若い人を入れる気がないし、1960 年代のデモの話をして喜んでおじいさんおばあさんのところに、行く若者はいないです(笑)。でも、アルバイトに行かせている和光大学の学生たちなどがいるので、彼らが「しょうがない、やるか」と言ってくれる可能性はあると思います。

Q 倒木更新ではないですが、倒れれば育つ芽はあるということですか(笑)。

岸 最悪の場合、その団体が保全している拠点にうちの職員が車で行ってサポートします。いつまで維持できるかわかりませんが、職員がやっている間に、「おじいさんおばあさんはこわくないから、ぜひ来て」と若者を連れてきて、再生できるかなと思っています。

Q 岸先生のところの NPO はどうですか。

岸 若者はいますけど、なかなか十分なお金が入ってきません。この間も 1 人辞めました。仕事ができないわけではありません。ぼくらは入札を取って運営している NPO 法人で、補助金でやっているのではないので、いろいろな規制があるんです。能力の高くない地域の会社を優先し、能力のきわめて高い NPO を入札に入れれないといったことが行われています。能力の高くない会社は 300 万円で年 2 回しか草刈りしませんが、NPO は 50 万円で 10 回やります。規制緩和されないと、ぼくらは来月で終わりになるかもしれません。

日本の NPO は本当に大変です。きれいごとで自己犠牲的にやるのは 60 歳~70 歳の団塊世代だけです。それじゃ若者たちは悪いかというと全然悪くなくて、アルバイト料を出せば来ます。「月 20 万円くらいで仕事ください」ということです。それ正しいです。団塊世代のやっていることは狂気に近いです(笑)。そんなものをよしとして、国や自治体が公共活動をやっていること自体が、もう持続不可能なんですね。自分も加担してますが、これ、間違いだと思っています。

せっかく議員さんがいるから言いますが、NPO 法人が有償事業をやると株式会社より税金が高いということを、みなさんほとんど知りません。われわれのように頑張って収益事業をやると、税金で半分持っていかれます。NPO 法人には連結決算という制度が入っていません。連結決算を入れると、力がなくてコネで仕事をしている中小企業を NPO がどんどんつぶしてしまうからです。ですから、同じ仕事を同じ額でとったら税金をとられるから稼げません。そういう調整がいかに張り巡らされていることか。

Q 明らかにしてないといけないわけですね。儲けてはいけない。

岸 儲けてもいいんです。儲けて、そのお金を全部公共活動に使っています。なのになぜ税金を他の法人よりもたくさん取るか。配当があるわけではない。中心スタッフはみんなタダ。にもかかわらず、NPO が頑張って有力になるとどうしてこんなに税金取られるのか。冷静に自分をみると、なんだか牢屋につながれているような気分にもなりますね。まさか千葉県に来て、こんなことが言うとは思いませんでした(笑・大拍手)。

司会 ありがとうございます。理想もあり現実もあって大変だと思います。お話は尽きませんが、これで手賀沼流域フォーラムの全体会を終わりたいと思います。ありがとうございました。

※写真、資料すべて大津川をきれいにする会提供

